

1 教科について

国語

昨年度の課題

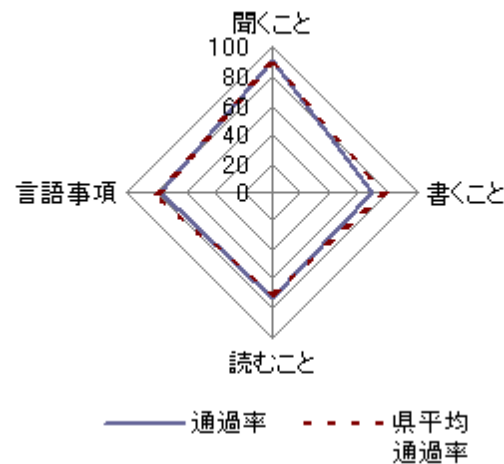
- ①「書くこと」の領域では記述する内容の整理や理由を整理して書くことの通過率が低い。
- ②「読むこと」の領域で、文脈上の語句の理解と登場人物の心情の把握、指示語の内容の把握について通過率が低い。

昨年度の課題を受けて具体的に取組んだ事項

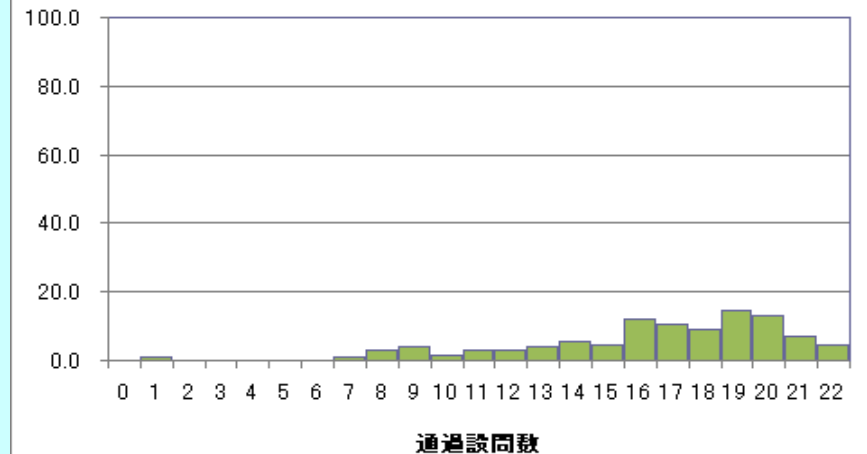
- ①ノートに自分の考えをまとめて書かせたり、学習内容の整理や感想をじっくり書かせる取り組みを行った。
- ②「言語技術」の学習で、文章の構成や情報の分析する技術を取り入れた授業を展開するとともに、要約などの訓練を繰り返し行った。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 75.1% 県平均 77.5%

領域別平均通過率(国語)



通過設問数ごとの生徒割合(国語)



重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査
◇: 全国学力・学習状況調査

- ◎「書くこと」の領域では「文章全体の構成」と「意見を支える適切な理由を書くこと」の通過率が低い。
- ◎「言語事項」では、「文語のきまり」の通過率が低い。
- ◇「読む」の領域の「段落相互の関係の把握」の通過率が低い。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①授業の中で自分の考えをまとめたり、感想を書き、書いた文章をお互い読みあったりして、意見と事実を意識した具体的な作文を書かせていく取り組みを行う。
- ②ドリル形式で練習させ、文脈上から理解させる活動を増やしていく。
- ③形式段落を意識させ、段落の役割、文と文の接続語に注目させるなど内容の把握の学習をすすめる。
- ④国語科だけではなく、日常的に自分の考えをまとめたり、書かせたりする取り組みをすすめていく。

来年度の目標値

○県平均よりも2ポイント以上上回る。

指導方法等の改善計画について

数 学

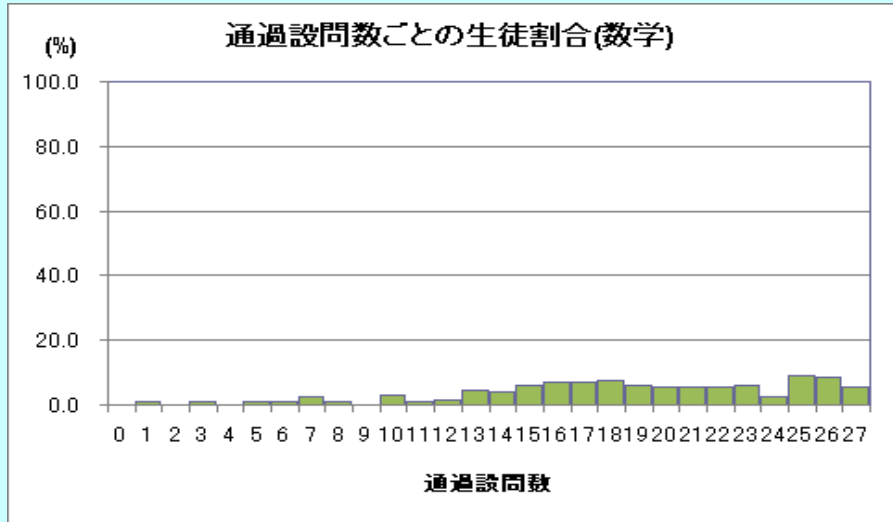
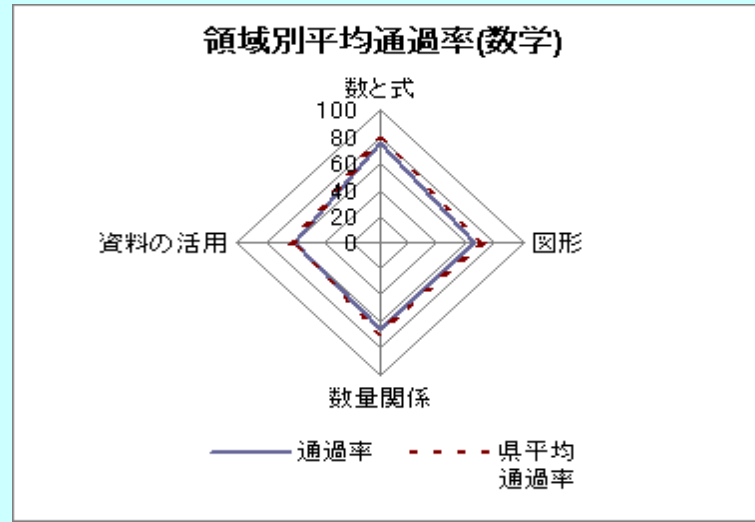
昨年度の課題

- ①数と式の領域では、一次方程式の立式や関係を文字式で表す問題の通過率が低い傾向が見られた。
- ②扇形の面積の求め方では、例年通過率が低い。

昨年度の課題を受けて 具体的に取り組んだ事項

- ①基礎・基本の定着に向けて、繰り返し学習の取り組みとしてプリント教材作りの充実を図った。
- ②生徒同士の教え合いの時間を毎回の授業で10分程度つくり、問題解決能力や学習意欲、論理的な説明力の向上に取り組んだ。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **69.8%** 県平均 **72.6%**



重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査 ◇:全国学力・学習状況調査

- ◎・・・扇形や円錐の面積や体積問題ができていない。公式の意味を理解しておらず、丸暗記の形の指導に偏重した原因も考えられる。
- ◎・・・グラフの考察力がなく縦軸や横軸の数量が何を表しているか理解できていない。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①計算については、これまで通り繰り返し学習を中心とした副教材と1年からの総復習となる週一回宿題プリントを使って学習を取組ませる。
- ②計算学習に時間をかけすぎた指導から数学的な見方や考え方(特に方程式立式・文字式で表す問題)を身につける指導に重点を変えていく。
- ③単元テストの回数を増やし、定期試験で基礎基本調査や全国学力調査の類似問題を毎回出題していく。

来年度の目標値 ○「数と式」の領域は75ポイント以上、「図形」「数量関係」の領域は70ポイント以上、「資料の活用」の領域は65ポイント以上をめざす。

指導方法等の改善計画について

英語

昨年度の課題

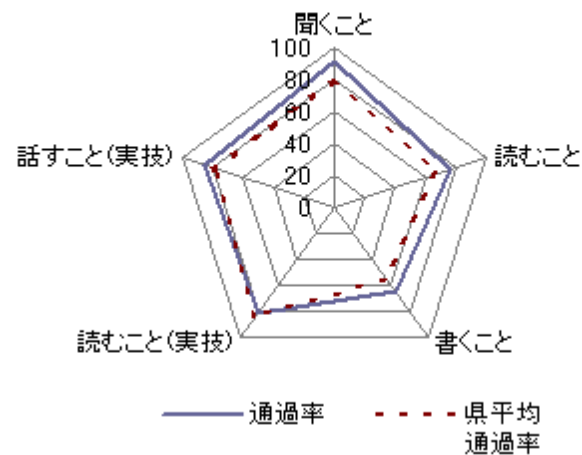
- ①「書くこと」の領域において、自分の考えや気持ちなどを読み手に正しく伝わるように書くことの通過率が低い傾向にある。
- ②「話すことの領域」では、読んだ文章についての問答や、自分の考えや気持ちなどを正しく相手に伝わるように話すことが苦手な生徒が多い。正確に単語や疑問文を聞き取る事ができない生徒が多い。

昨年度の課題を受けて 具体的に取組んだ事項

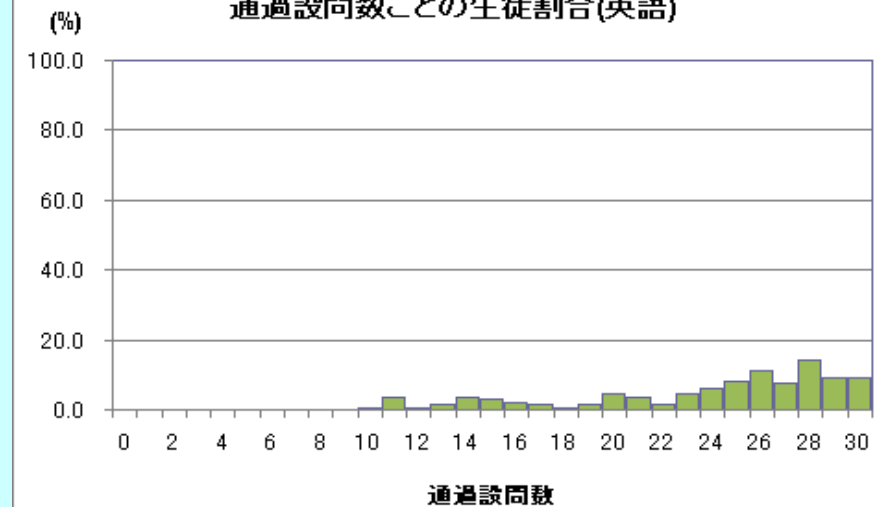
- ①単語や基本文型についての反復学習を7単元ごとに実施した。また、定着度を図るための単元テストや小テストを行い、定着が極めて困難な場合には、補充的な指導を実施するなど確実な定着を図った。
- ②音読を繰り返し行い、単語や文章の正しい発音の仕方やイントネーションを身につけさせるように努めた。読み物教材については、習熟度に応じて内容理解の為の英問英答などを行い、読みの定着を図った。定着の確認には読みのテストなどを単元ごとに行った。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **79.4%** 県平均 **70.2%**

領域別平均通過率(英語)



通過設問数ごとの生徒割合(英語)



重点課題

- ◎: 「基礎・基本」定着状況調査
- ◇: 全国学力・学習状況調査

- ◎「書くこと」の領域において yes-no 疑問文や疑問詞で始まる疑問文を場面に応じて正確に書くことができない生徒が多い。
- ◎「書くこと」の領域において現在形を用いて自分のことについて内容を考えて書くことの通過率が低い。
- ◎「読むこと」の領域において話の流れをつかみながら的確に読み取ることが苦手な生徒が多い。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

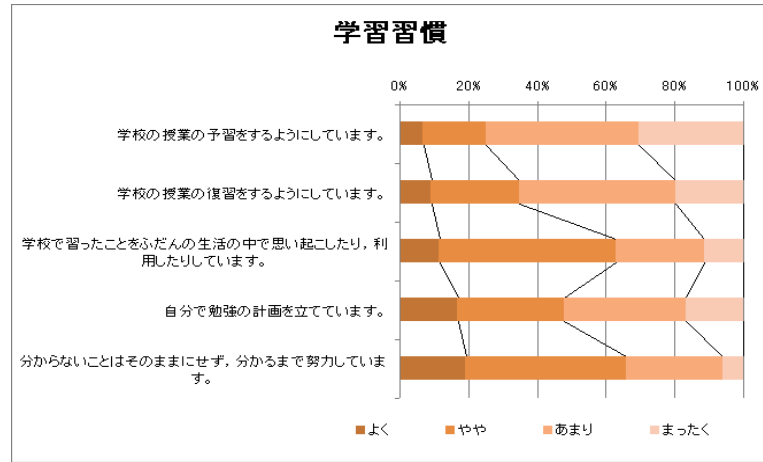
- ①授業はじめの会話の練習をする際に、yes-no 疑問文や疑問詞で始まる疑問文の応答を多くすることによって、疑問文の作り方に慣れさせる。
- ②授業中に現在形や過去形など既習の文型を使って自分のことについて表現する機会を数多く設け、場面に応じて英文を書かせるなどの指導を行う。単元テストや小テストを実施する。
- ③まとまった英文を読むときに代名詞や接続詞に留意して読むように意識づけをする。

来年度の目標値

○県平均よりも9ポイント以上上回る。

2 質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査, 生徒質問紙調査) (全国学力・学習状況調査：学校質問紙, 生徒質問紙)

(1) 生活・学習

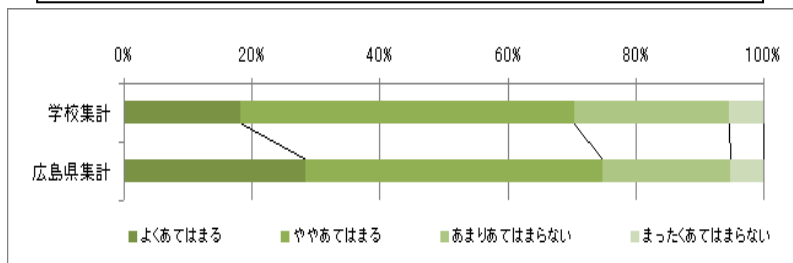


改善したい点 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	今後の具体的な取組の内容
◎学校の授業の予習・復習をする学習習慣がついていない。	次の2点を学期に1~2回程度実施する。 ① 家庭学習状況や学習に対する悩みを把握するアンケートの実施 ② それをもとにした教育相談(個人面接)を実施し予習・復習の大切さや方法についてアドバイスをしていく。

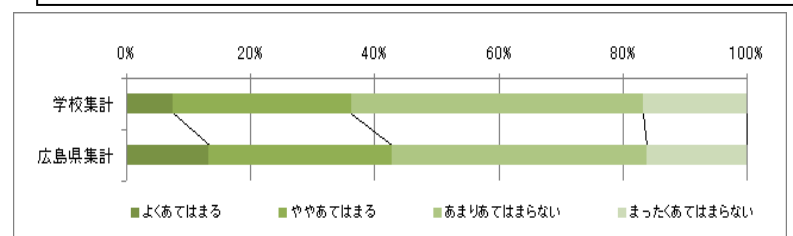
来年度の目標値	・予習や復習をする生徒の肯定的回答(よくあてはまる・ややあてはまる)の割合が県平均を上回る。
---------	--

(2) 教科

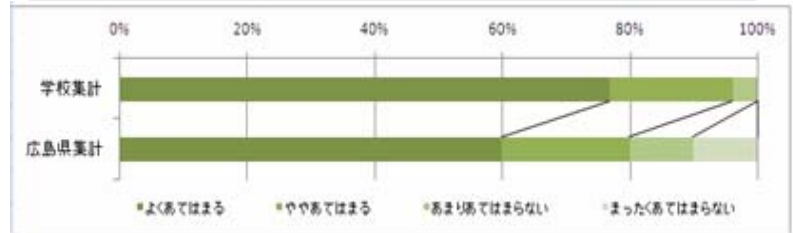
国語の授業を楽しみにしています。



数学の授業では、理由をあげて自分の考え方や解き方を説明しています。



英語の授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で話しています。



	生徒の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	◎「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答している生徒の割合が県平均を下回っている。意欲を持って学習できる授業づくりを工夫していくことが課題である。	目標とするべきははっきりとした到達点を明確にし、達成感を持たせる授業づくりに取り組む。そのためには、読みの方法や用語、原理・原則を習得させる学びをさせていき。生徒が興味関心を持って授業に取り組めるようにしていく。
数学	◎答え合わせのための発表が多く、思考力を高める発問が行われていない面があった。また、教え合いをさせているが、一方的に解法を教える活動になっており、教えられる側がなぜそうなるのか聞き返す活動ができていない。	理由説明や解法の説明を文章の形で書かせ、自分の考えを表現する活動を取組ませる。また、定期試験で理由説明や解法の説明を記述する問題を出題し、検証する。
英語	◎自分の考えや気持ちなどを英語で表現すること、また、話が長くよにつながぎ言葉を用いて英語で話すことに苦手意識を持っている生徒が多い。	生徒が積極的に参加できる授業にするために、授業で習った表現を使って相手に質問したり、自分のことを語る場面を作っていく。

来年度の目標値	・各教科担が取り上げた質問項目について、今年度より肯定的回答(よくあてはまる・ややあてはまる)を5ポイントアップさせる。
---------	--

指導改善のための実施スケジュール

	～8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
	Plan	Do			Check		検証	Action	Check	
	結果の分析・H2 1の改善計画の見直し H2 2の改善計画の実施							次年度の計画		
【教科】		漢字練習《毎日》	暗唱・音読（適宜）							
国語		単元テスト ↔ 小テスト	単元テスト ↔ 小テスト	単元テスト ↔ 小テスト・意見文	単元テスト ↔ 小テスト	単元テスト ↔ 小テスト	単元テスト ↔ 小テスト	単元テスト ↔ 小テスト		
数学				週一回の宿題プリント						
			単元テスト	単元テスト	単元テスト	単元テスト	単元テスト	基礎基本調査再実施		
英語				毎勉ノート						
		確認テスト	確認テスト	確認テスト 会話練習	確認テスト	確認テスト	確認テスト	確認テスト		
【生活・学習】										
			アンケート実施 教育相談面接			予習・復習状況 調査実施	アンケート実施 教育相談面接		予習・復習状況 調査実施	

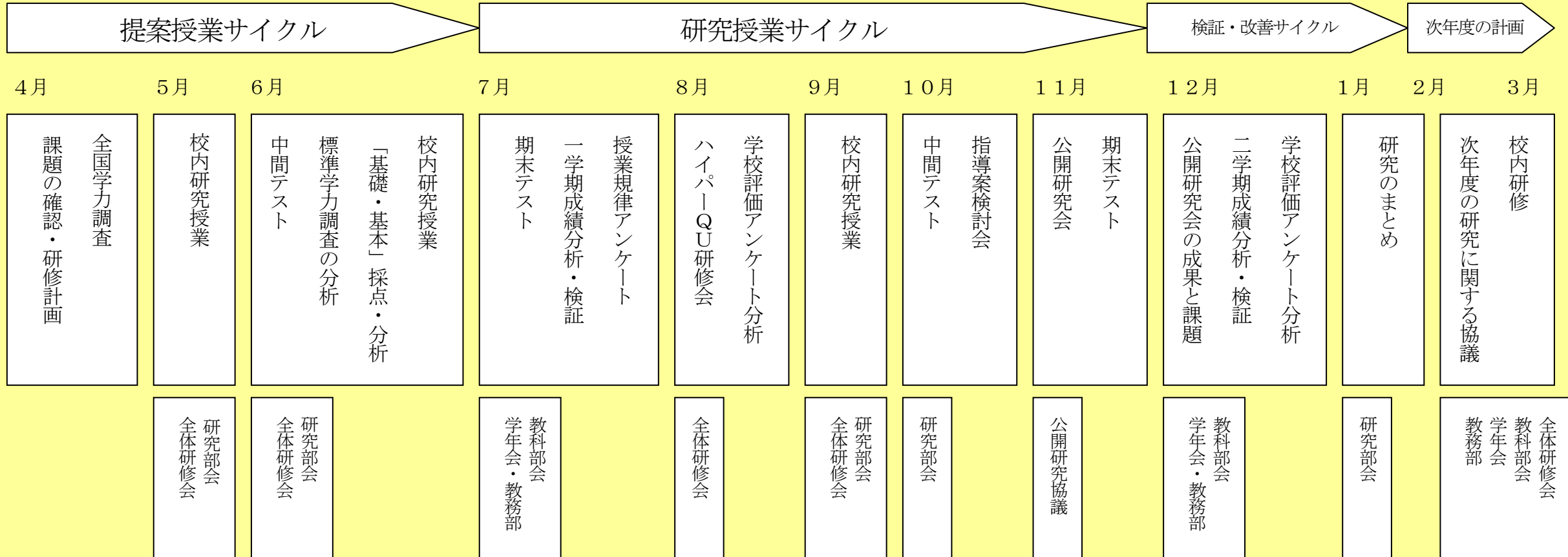
取組みを進めるための計画

三原市立第五中学校

分析

いつ 学期末 研修形態 教科・全体研修 リーダー 研究主任・教務主任

進捗状況把握の方法



進捗状況の把握

いつまでに 3学期末 どのような方法 全国学力調査, 基礎基本調査, 定期テスト, アンケート 他

検証結果

本校では、昨年度より「道徳教育実践研究事業推進校」の指定を受け「集団としてのきまりを尊重し規範意識をはぐむ道徳教育」という研究主題のもと取り組みを進めてきている。「道徳の時間」の授業力向上は、各教科の授業力の向上につながるはずである。したがって、道徳教育の推進を通して、基礎学力の定着を図り、進んで学習する態度を育成できているかどうかを検証する。

◎状況の検証

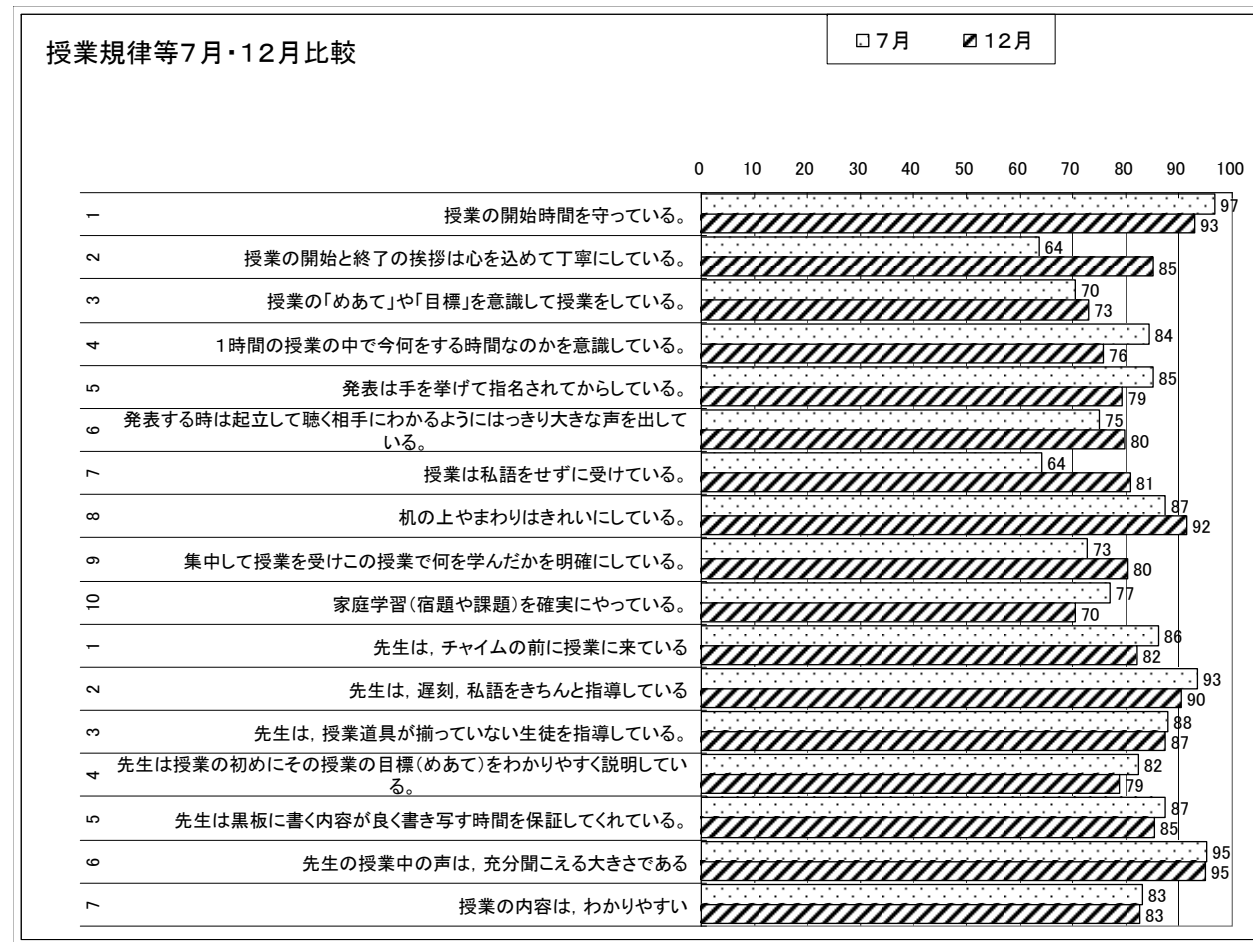
【基礎基本学力調査より】

番号	質問内容	ふだん（月曜日～金曜日）、家では、1日何時間くらい勉強していますか。（学習塾や家庭教師との学習はのぞきます。）						番号	質問内容	休日（土曜日・日曜日・祝日など）、家では、1日何時間くらい勉強していますか。（学習塾や家庭教師との学習はのぞきます。）					
	選択肢	1 勉強していない	2 30分間より少ない	3 30分間以上、1時間より少ない	4 1時間以上、2時間より少ない	5 2時間以上、3時間より少ない	6 3時間以上		選択肢	1 勉強していない	2 30分間より少ない	3 30分間以上、1時間より少ない	4 1時間以上、2時間より少ない	5 2時間以上、3時間より少ない	6 3時間以上
(41)	学校集計	7.6	18.2	42.4	25.0	6.1	0.8	(42)	学校集計	15.9	14.4	31.8	28.8	6.1	3.0
	広島県集計	8.9	16.6	29.8	33.3	9.5	1.9		広島県集計	12.6	15.8	22.1	28.4	15.0	6.2

家庭での学習時間は、県平均と比べやや少ない状況が見られる。

【アンケートより】

7月と12月に「授業規律アンケート」を実施した。



改善が見られたのは、「授業の開始と終了の挨拶は心を込めて丁寧に行っている」「授業のめあて、目標を意識している」「発表時の声の大きさ」「授業中の私語をしない」「机の周りはきれいに行っている」「集中して授業を受けている」の項目である。これは、五中スタイル（授業規律に関する10か条）を教員が意識して授業に望んだこと、また、本校の研究である道徳への取組、特にマナーやモラルについて重点的に取組んだことソーシャルスキルトレーニングを行ったことなどが成果として現れていると考えられる。

課題としては、前年度からの継続課題である「家庭学習を確実にやっている」という項目が依然として伸びていない点である。各教科でのチェック体制の見直し、また、担任や保護者との連携を密にして「やらせきる指導」を徹底して行う必要がある。

【1学期成績より】

	1年生		2年生		3年生	
	関心	知識	関心	知識	関心	知識
国語	32%	46%	54%	27%	39%	5%
社会	30%	21%	70%	28%	35%	25%
数学	68%	38%	66%	47%	41%	22%
理科	30%	25%	30%	20%	25%	15%
英語	64%	63%	70%	17%	47%	22%

表は各教科での観点別評価Aの割合を示している。これらの結果から、関心意欲態度で良い教科ほど知識理解の評点も良くなっていることがわかる。しかし、関心意欲態度の評価が良いにもかかわらず、知識理解での評価がそれほど良くない教科があることは課題であり、生徒の関心意欲を高め、基礎学力をつけることのために、授業改善を図らなければならない。

成果と課題

・毎週の学年会での協議、講師招聘による校内授業研究、ワークショップ型の研修による討議などにより「道徳の時間」の授業力アップはかなり進んでいる。この「道徳の時間」の授業力向上を他教科の授業力向上につなげるために11月24日に教務主任による技術科の授業研究を行った。広島県学びのサイクルにもある、しっかり教えるところ、一人でじっくり考えさせるところ、グループで意見を交流し考えを深化させるところ、そしてはっきり発表させるところなどを取り入れた研究授業を実施した。道徳の授業で様々な工夫してきた手法は、教科で利用できることを今回の授業で例示できた。また、各教科と道徳とかわりについても確認できた。今後は、今回の授業を参考にすることで、各々が向上させた道徳の授業力を、各教科の授業で活かすように実践をしていく必要がある。